

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

1日

先負 婁

旧2月2日

土曜

妙法蓮華経随喜功德品第十八

ごじゆう てん でん ずいき きくどく

五十展転随喜の功德

「随喜の心は五十人に至っても変わらずに伝わる」

分別功德品で説かれた「滅後の五品」の一番目「初随喜品」について、弥勒菩薩に対し詳しく説いたのが「随喜功德品」であり、その例を示すものとして「五十展転随喜の功德」が説かれます。

お釈迦さまの滅後、ある人が法華経を聞いて喜び人に説き、次々に五十人目に至っても最初の一人と同じ喜びの心が伝わるという教えです。

教えそのものが非常に善いので、随喜の心は変わらずに伝わるのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

2日

仏滅 胃

旧2月3日

日曜

妙法蓮華経随喜功德品第十八

によ ごと しよ もん

如其所聞

「聞いた通りに伝えるのは難しい」

聞いた通りに伝えるのは難しいものです。

細かい部分を忘れてしまったり、思い違いをしていたり、自分の都合のいいように話を作り替えた
りすると情報は正確に伝わりません。

最初の一人が聞いた教えが五十人目に伝わった
後に内容が変わってしまいうこともあるでしょう。

「五十転展随喜の功德」には、伝わる内容が変わっ
ても、随喜の心は変わらないだけでなく、功德
も変わらないことが説かれています。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

3日

大安 昴

旧2月4日

月曜

妙法蓮華経随喜功德品第十八

随力演説

ずい りき えん ぜつ

「力に随って演説する」

「力に随って演説する」に二つの意味があります。
一つ目は、努力を惜しまないことです。

力の出し惜しみをしたり、相手を見くびっていい
加減に説いたりしてはいけません。

二つ目は、自分の力不足を誤魔化すために、わか
ったふりをして適当な発言をしてはならないと
いうことです。

仏さまの真意のままに伝えるために努力を惜し
まず学ぶことがいかに大切かということなのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

4日

赤口 畢

旧2月5日

火曜

妙法蓮華経随喜功德品第十八

ろく しゆ し しょう しゆ じょう

六趣四生衆生

「生きとし生けるものすべて」

「六趣」とは地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天の六道のこと、様々な心を持ったものを指します。

「四生」とは卵生(卵から生まれるもの)・胎生(母の身から生まれるもの)・湿生(湿った場所から生まれる虫など)・化生(過去の業によって忽然と生まれる天・地獄・中有などの者)の四種の生まれ方。「六趣四生衆生」とは、いろいろな考え方や生まれ方をするもの、つまり生きとし生けるものすべてを指しています。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

5日

啓蟄

大安 婁

旧2月6日

水曜

妙法蓮華経随喜功德品第十八

有形うぎよう 無形むぎよう 有想う 無想む 非有想ひう 非無想ひむ 無足そく 二足にそく 四足しそく 多足たそく

「生命あるものは、それぞれ欲するものが違う」

「有形(肉体を持つ欲界・色界の者)」、「無形(肉体をもたない無色界の者)」、「有想(差別や分別の意識を持つ者)」、「無想(差別の意識のない者)」、「非有想(差別はつまらないと気づいた者)」、「非無想(差別など超越した者)」、これらは様々な考えを持つ者として紹介されています。

そして「無足(へビ・ミミズなど)」から「多足(ムカデ・クモなど)」まで、生命あるものすべてがそれぞれ欲するものが違うことが説かれています。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

6日

友引 参

旧2月7日

木曜

妙法蓮華経随喜功德品第十八

ぜ だい せ しゆ によ ぜ ふ せ

は大施主 如是布施

「大いなる布施をする功德」

生命あるものそれぞれの欲するところに従って
宝物や娯楽の品を与えた大施主は、年齢を重ね死
が近いと感じたとき、欲望を満足させたただけ
では足りないことに気づきました。

そして、仏さまの教えを説き、皆が喜んで学び、
教えを実践するようにと導きました。

財施(金品を与えること)・無畏施(苦を減じてやる
こと)・法施(教えを説いて導くこと)の中で、法施
の功德が最も大きいことを示しています。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

7

日

先負 井

旧2月8日

金曜

妙法蓮華経随喜功德品第十八

しゆだ こんどう

須陀洹道

しだ こんどう

斯陀含道

あな こんどう

阿那含道

あらかんどう

阿羅漢道

「仏道修行の四つの段階」

①須陀洹道…仏弟子となった者

②斯陀含道…まだ凡夫に戻りそうな者

③阿那含道…凡夫に戻るおそれのない者

④阿羅漢道…一切の迷いを除き尽くした者

以上、仏道修行の段階を四つに分け、それぞれに「向(向かって進む位)」と「果(到達した境地)」を立てるので「四向四果」といいます。

大施主が衆生を阿羅漢道に導いた功德の大きさが説かれています。

妙法蓮華經隨喜功德品第十七

爾時弥勒菩薩摩訶薩。白佛言。世尊。若有善男子。善女人。聞是法華經。隨喜者。

如其所聞。為父母宗親。善友知識。隨力演說。是諸人等。聞已隨喜。復行轉教。

余人聞已。亦隨喜轉教。如是展轉。至第五十。阿逸多。其第五十。善男子。善女人。隨喜功德。我今說之。汝當善聽。若四百万億。阿僧祇世界。六趣四生衆生。

卵生。胎生。湿生。化生。若有形。無形。有想。無想。非有想。非無想。無足。

二足。四足。多足。如是等在。衆生數者。有人求福。隨其所欲。娛樂之具。皆給

与之。一一衆生。与滿閻浮提。金銀。瑠璃。砮磈。碼碯。珊瑚。琥珀。諸妙珍寶。

及象馬車乘。七宝所成。宮殿樓閣等。是大施主。如是布施。滿八十年已。而作是

念。我已施衆生。娛樂之具。隨意所欲。然此衆生。皆已衰老。年過八十。髮白面

皺。將死不久。我當以佛法。而訓導之。即集此衆生。宣布法化。示教利喜。一時

皆得。須陀洹道。斯陀含道。阿那含道。阿羅漢道。盡諸有漏。於深禪定。皆得自

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

8日

仏滅 鬼

旧2月9日

土曜

妙法蓮華経随喜功德品第十八

によぜ だいごじゆうにん

てんでんもんほけきよう

如是第五十人

展転聞法華経

「法華経を聞いて自ら仏に成ろうとする功德」

大施主が多く、金品を布施し、一切の迷いをなくす阿羅漢果に導いたとしても、法華経の一句一偈を聞いて有難いと感じ、実践しようと思った功德の百千万億分の一にも及ばないと説かれます。自分に施す財力や教え導く智慧を持っていないければ、できることには限界があります。しかし、自分が仏さまと同じになれたなら無限の人々を救うことができます。自ら仏に成るといふ一念が何より尊いのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

9日

大安 柳

旧2月10日

日曜

妙法蓮華経随喜功德品第十八

しゆ ゆ ちよう じゆ

須臾聴受

「法華経をしばらくでも聴く功德」

ここまで法華経を聞いて仏に成ろうという心を持つだけで大きな功德があると説かれました。仏に成る種を持っているにもかかわらず、それに気づかず、物足りなさを感じて生きている人は少なくありません。仏さまの教えを聞く機会がすぐそばにあるのに通り過ぎてしまう人も多いのです。少しの間でも、法華経の説法を聴いて有難いと思うことが成仏の第一歩となるのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

10日

赤口 星

旧2月11日

月曜

妙法蓮華経随喜功德品第十八

ぶん ざ りよう ざ

分座令坐

「坐を分かつ功德」

もし法華経を説いている場所に坐っているときに、あとから入ってきた人に坐を分かつその功德は莫大であると説かれています。

法華経に出会うのは極めて稀であるため、教えを聞く縁を他者に分け与えるだけでもその功德はとても大きなものになります。

一人で聞いて学ぶより、二人で学びの確認をしながら聞く方が身に付くこともあります。

仏さまの教えは皆で分かち合うものなのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

11日

先勝 張

旧2月12日

火曜

妙法蓮華経随喜功德品第十八

か ぐ おう ちよう

可供往聴

「ともに説法の間に行く功德」

法華経の説法の間には他者を誘い共に行く功德は、次に生まれ変わった際に陀羅尼菩薩と同じ国に生まれるだろうと説かれています。

陀羅尼菩薩は善い事を続け、悪いことを断ち切る力を持つ菩薩です。

説法の座に誘うということは、教えを聞く人を増やすことになり、善い教えが広がり続けることにつながるのであります。

その功德の大きさが説かれています。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

12日

友引 翼

旧2月13日

水曜

妙法蓮華経随喜功德品第十八

無^む有^う一切^{いつさい} 不可^{ふか}喜^き相^{そう}

「好ましい容姿になる」

法華経を聞く縁を人に与えたその功德が容姿に現れることが縷々説かれています。

善い教えに出会うと心の持ち方が外観に現れ、好ましい姿になっていくということです。

仏さまの「三十二相」と同じように、心が仏に近づくとつれて容姿も変わってくるのです。

正しい信仰をもって生活していると、立ち振る舞いにも表れ、周囲から見た印象も変わってくるということです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

13日

先負 軫

旧2月14日

木曜

妙法蓮華経随喜功德品第十八

によ しゃつ かん ぜ

汝且観是

「心で観てしつかりと判断せよ」

「観」とは目で見ることではなく心で観ること。

目で見て、耳で聞いて、深く考えて、しつかり判断せよとお釈迦さまはおっしゃったのです。

今の世の中は膨大な情報が溢れている中で、呆然と眺めていると一部の人間の思惑に誘導されることさえあります。

何が正しく、どう行動すればよいのか、仏さまの智慧を身に着け見極めなければなりません。

そのためにも初めの随喜が大切なのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

14日

仏滅 角

旧2月15日

金曜

妙法蓮華経随喜功德品第十八

によ せつ しゆ ぎよう

如説修行

「説の如く修行せん」

教えを口で説くだけでは本当に説いたことにはなりません。

「如説修行(お釈迦さまが説かれたとおり修行する)」とは、教えに説かれているところを実践し範を示すことです。

「随喜(教えを聞いて喜ぶ)」を出発点として、「如説修行」に励むのが仏道です。

道からそれないように常に經典を読み、日々の行動を振り返ることが大切です。

妙法蓮華經隨喜功德品第十八

阿逸多。如是第五十人。展轉聞法華經。隨喜功德。尚無量無邊。阿僧祇。何況最初。於會中聞。而隨喜者。其福復勝。無量無邊。阿僧祇。不可得比。又阿逸多。若人為是經故。往詣僧坊。若坐。若立。須臾聽受。緣是功德。轉身所生。得好上妙。象馬車乘。珍寶輦輿。及乘天宮。若復有人。於講法處坐。更有人來。勸令坐聽。若分座令坐。是人功德。轉身得帝釈坐處。若梵天王坐處。若轉輪聖王。所坐之處。阿逸多。若復有人。語余人言。有經名法華。可共往聽。即受其教。乃至須臾間聞。是人功德。轉身得與。陀羅尼菩薩。共生亦不狹長。亦不窟曲。無有一切。不可喜相。唇舌牙齒。悉皆嚴好。鼻修高直。面貌円滿。眉高而長。額広平正。人相具足。世世所生。見佛聞法。信受教誨。阿逸多。汝且觀是。勸於一人。令往聽法。功德如此。何況一心。聽說誦誦。而於大衆。為人分別。如說修行。爾時世尊。欲重宣此義。而說偈言

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

15日

大安 亢

旧2月16日

土曜

妙法蓮華経随喜功德品第十八

せ かい ふ ろう こ によ すい まつ ぼう えん

世皆不牢固 如水抹泡焰

「世俗の繁栄は長く続かない」

「栄枯盛衰は世の習い」といわれるように、世俗の繁栄は長く続かないことを水の泡や燃える焰に譬えています。

仏さまの目で見れば繁栄はほんの一瞬です。

長続きさせることに執着するのではなく、毎日懸命に生きて他者を幸せにするという菩薩行を積むことが大切です。

そして皆が仏と成れたなら、その国は決して衰えたり、滅んだりすることはないのであります。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

16日

赤口 氏

旧2月17日

日曜

妙法蓮華経随喜功德品第十八

ごん し きよう じんみよう せん まん ごう なん ぐう

言此経深妙 千万劫難遇

「非常に深い教えに出会うことは難しい」

仏さまの教えは非常に大きく深いもので、千万年を経ても出会うことは難しいのだから、ぜひ聞くようにと勧めるのが正しい布教です。

信心したら儲かるとか、病気が治るといった勧誘するのは本当の布教ではありません。

自らの中にある仏に成る種を大事に育て、自分が仏さまと同じになれたなら、たくさんの人々を救うことができるのだと導かなければなりません。その最初の入口に導くのが難しいのです。

法華經 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

17

日

先勝 房

旧2月18日

月曜

妙法蓮華經隨喜功德品第十八

がきよういつしんちよう

何況一心聴

によせつ にしゆぎよう

げせつ ごぎしゆ

解説其義趣

ごふく ふかげん

如説而修行

其福不可限

「教行証の功德は無限である」

この四句は「教・行・証」を表しています。

「教」とは正しい教えを一心に聴くこと。

「行」とは教えを理解し、他者に説くこと。

「証」とは「行」の結果として悟りに至ること。

日蓮聖人は、正しい教えを誇るものが多くなる

末法において、「教」は一念三千の仏種たる妙法

蓮華經の五字、「行」は南無妙法蓮華經の題目受

持、「証」は五字の受持による釈尊の因行果徳の

自然讓与であると説かれました。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

18日

友引 心

旧1月21日

火曜

妙法蓮華経法師功德品第十九

ほつ し く ごとく

法師功德

「教えを弘める人の功德」

『分別功德品の第十七』の「四信五品」と『随喜功德品第十八』の「五十展転の功德」は修行初心者の功德を説いたものですが、『法師功德品第十九』は「四信五品」の修行を完成して得る「六根清浄」の功德を説いています。

「法師」とは仏さまの教えを弘めるために力を尽くしている人のことを指します。

年齢や職業に関係なく一瞬でも教えを弘めようとする人は皆法師なのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

19日

先負 尾

旧2月20日

水曜

妙法蓮華経法師功德品第十九

じょう しょう じん ぼ さつ

常精進菩薩

「常にあきらめず努力する菩薩」

「常精進」とは常にあきらめず努力するという意味で、常精進菩薩はその修行に励む姿から名づけられた菩薩です。

『法師功德品』では、お釈迦さまが常精進菩薩に法華経を受持・読・誦・解説・書写する「五種法師」の修行を実践し完成した者は「六根清浄」を得ると伝えました。

修行を完成するために「常精進」が大事であることを示しているともいえるです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

20日

春分の日

仏滅 箕

旧2月21日

木曜

妙法蓮華経法師功德品第十九

ご しゅ ほっ し

五種法師

「法華経修行の五種」

「五種法師」とは、法華経修行の五種。

①受持：教えを信じ、持ち続け実践すること。

「受持」は修行の中心「正行」です。

②読：経文を文字の通り読むこと

③誦：経文を暗誦し、繰り返し考えること

④解説：経を解釈して他者に説くこと

⑤書写：経を写し伝えていくこと

「読・誦・解説・書写」は、「受持」を堅固なものにするための「助行」となるものです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

21日

大安 斗

旧2月22日

金曜

妙法蓮華経法師功德品第十九

ろっ こん しょう じょう

六根清浄

「六根のけがれを払って清らかになること」

「六根」とは、人間の知覚を構成する①眼(視覚)

②(聴覚) ③鼻(嗅覚) ④舌(味覚) ⑤身(触覚)の

五感覺機官と、認識し思考する⑥意(心)のこと。

「六根清浄」とは、六根のけがれを払い、身心の煩悩を除いて清浄になることです。

『法師功德品』では、六根それぞれに「八百」や「千二百」の功德があると説かれています。

四と八の倍数が「四方八方」へ広く行き渡ることを示しています。

妙法蓮華經隨喜功德品第十八

僧皆不牢固 如水沫泡焰 汝等咸应当 疾生厭離心 諸人聞是法 皆得阿羅漢

〈略〉

言此經深妙 千万劫難遇 即受教往聽 乃至須臾聞 斯人之福報 今當分別說

〈略〉

是福因緣得 釈梵轉輪座 何況一心聽 解說其義趣 如說而修行 其福不可限

妙法蓮華經法師功德品第十九

爾時佛告。常精進菩薩摩訶薩。若善男子。善女人。受持是法華經。若誦。若

解說。若書寫。是人當得。八百眼功德。千二百耳功德。八百鼻功德。千二百舌功德。

八百身功德。千二百意功德。以是功德。莊嚴六根。皆令清淨。是善男子。善女人。

父母所生。清淨肉眼。見於三千大千世界。内外所有。山林河海。下至阿鼻地獄。上

至有頂。亦見其中。一切衆生。及業因緣。果報生處。悉見悉知。爾時世尊。欲重宣

此義。而說偈言

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

22日

赤口 女

旧2月23日

土曜

妙法蓮華経法師功德品第十九

父母所生

「両親から受け継いだ生身のままに仏に成る」

両親から受け継いだ眼・耳・鼻・舌・身がそのままに仏に近づくということ。

生まれながらの凡夫の身が信仰の実践によって進化発展し、仏へと近づいていくのです。

また、生まれたばかりの赤子のように汚れない心を忘れないという意味もあります。

五種法師行の実践により、六根が研ぎ澄まされ清浄となり、菩薩の自覚が目覚めていきます。

これが即身成仏 生身のまま仏に成る道です。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

23日

先勝 虚

旧2月24日

日曜

妙法蓮華経法師功德品第十九

げん こん しょう じょう

眼根清浄

「清浄な眼で見る」

煩惱を抱えていると自分の都合のよいようにものを見て、本当に大事なことを見失い、真実が見えなくなってしまう。

水面に波がないと物の姿がはっきり映ります。

波があると歪んで映ります。

同じように、心の眼が清浄であれば物事をありのままに見て道を誤ることはありません。

心の眼が濁ると気づかぬうちに迷路に迷い込んでしまいます。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

24日

友引 危

旧2月25日

月曜

妙法蓮華経法師功德品第十九

に こん しょう じょう

耳根清浄

「清浄な耳で聞く」

自分に知識がない話を聞いても理解できないように、仏さまの教えも信をもって学んでいなければ、何度聞いても理解できないものです。

仏さまの教えに出会い、自らも仏に成ろうと努めていると耳が清浄になり、人の喜怒哀楽の声だけでなく、動物の声・天上界の住人の声・自然界の音など、あらゆる声や音を聞き分けられるようになる」と説かれています。

そして仏さまのお声も聞こえてくるでしょう。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

25日

先負 室

旧2月26日

火曜

妙法蓮華経法師功德品第十九

に ふ え に こん

而不壊耳根

「耳根を壊れじ」

雑踏や騒音の中にいると疲れて聴覚を閉ざすことがあります。

聞きたくない話や興味のない話題を軽んじて、聞こうとしなくなることもあります。

いい加減に効いて大事な話を聞き逃したり、相手の気持ちを汲み取れず不用意な言動をしてしまふなど、聞き損じは多いものです。

仏道修行により清浄な耳を身に着け、世の中の声を聴き分けるようになりたいものです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

26日

仏滅 壁

旧2月27日

水曜

妙法蓮華経法師功德品第十九

び こん しょう じょう

鼻根清浄

「清浄な鼻で嗅ぐ」

「香り」と「匂い」はどちらも鼻で感じる刺激ですが、「香り」は快い意味で用いられ、「匂い」は、不快、両方に用いられます。

香水や香木の良い香りは気分を爽快に、腐ったゴミの匂いは不快にさせます。

人の気分は鼻からの刺激に左右されることが多いのです。

仏さまに向き合う際には、清掃をして香を焚き、場を清め鼻根を清浄に保ちたいものです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

27

日

大安 奎

旧2月28日

木曜

妙法蓮華経法師功德品第十九

しゆ じゆ しよ こう

種種諸香①

「清浄な鼻で聞き分ける様々な香り」

『法師功德品』には、仏道修行の場を清浄にして
くれる様々な香りが挙げられます。

須曼那華香：須曼那華は心から美しいと思う花

闍提華香：闍提華は金盞花（きんせんか）の訳

末利華香：末利華はジャスミンのこと

瞻蔔華香：芳しい香りのするクチナシのこと

波羅羅華香：波羅羅華は花が重なって咲く

赤蓮華香・青蓮華香・白蓮華香

：蓮は泥に染まらない仏教のシンボル

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

28日

赤口 奎

旧2月29日

金曜

妙法蓮華経法師功德品第十九

しゅ じゅ しよ こう

種種諸香②

「清浄な鼻で聞き分ける様々な香り」

華樹香：花が咲く樹の香り

果樹香：果物が生る樹の香り

梅檀香：梅檀は香木「白檀」のこと

沈水香：沈水は香木「伽羅」のこと

多摩羅跋香：多摩羅跋は「桂皮」シナモンのこと

多伽羅香：根に香りがある香木

和香：様々な香を混合したお香

抹香：粉末のお香 丸香：固く丸めたお香

塗香：粉末を塗り込むお香

妙法蓮華經法師功德品第十九

父母所生。清淨肉眼。見於三千大千世界。內外所有。山林河海。下至阿鼻地獄。

〈略〉

復次常精進。若善男子。善女人。受持此經。若誦。若誦。若解說。若書寫。得千二百耳功德。以是清淨耳。聞三千大千世界。下至阿鼻地獄。上至有頂。其中內外。

〈略〉

皆悉聞知。如是分別。種種音声。而不壞耳根。爾時世尊。欲重宣此義。而說偈言

〈略〉

復次常精進。若善男子。善女人。受持是經。若誦。若誦。若解說。若書寫。成就八百鼻功德。以是清淨鼻根。聞於三千大千世界。上下內外。種種諸香。須曼那華香。

闍提華香。末利華香。瞻蔔華香。波羅羅華香。赤蓮華香。青蓮華香。白蓮華香。華

樹香。果樹香。栴檀香。沈水香。多摩羅跋香。多伽羅香。及千萬種和香。若抹。若

丸。若塗香。持是經者。於此間住。悉能分別。又復別知。衆生之香。象香。馬香。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

29日

先負 胃

旧3月1日

土曜

妙法蓮華経法師功德品第十九

もん

しよ

てん

しん

こう

聞諸天身香

「諸天の身の香を聞く」

嗅覚だけでなく感覚全体で受け取るという意味から、「香りを聞く」と表現されます。

心が清浄になると、忉利天(帝釈天の住む世界)の御殿やお堂で天上界の住人たちが歡喜している様子を感じ取ることができるといわれるほど嗅覚が研ぎ澄まされると説かれています。

天上界は喜びに満ちた世界ですが、始終楽しんでばかりだと虚しさを感ずるものです。

様々な境遇を知るのも大切だということです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

30日

仏滅 昴

旧3月2日

日曜

妙法蓮華経法師功德品第十九

地中諸衆生

じ ちゅう じょ しゆ じよう

「地中の生きとし生けるものすべて」

この世の果てにある鉄圍山(てっちせん)や大海に囲まれた世界の地上のみならず、地中にいる全ての生きとし生けるものの匂いを嗅ぎ分けることができる」と説かれています。

地中にいるものとは、ミミズやアリなどの生物だけではなくバクテリアや微生物までを指し、それらすべての存在が鼻根清浄になることによつて知ることができるといふのです。

地中奥深くまで仏の慈悲は行き渡るのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

3月

31日

大安 畢

旧3月3日

月曜

妙法蓮華経法師功德品第十九

にやく う え にん しゃ

若有懐妊者

「懐妊した者への安心」

胎児の性別や体調の善し悪し、安産か否かまで、鼻根清浄になることによって知ることができると説かれています。

妊娠出産は妊婦にも家族にも一大事です。

医学が進歩した現代においても、子供が無事に生まれ、育つまで心配事は山積みです。

「受持・読・誦・解説・書写」の「五種法師」の修行によって六根清浄となり、心配が安心と喜びとなるよう努めましょう。

妙法蓮華經法師功德品第十九

又聞諸天身香。釈提桓因。在勝殿上。五欲娛樂。嬉戲時香。若在妙法堂上。

為忉利諸天。說法時香。若於諸園。遊戲時香。及余天等。男女身香。

皆悉遙聞。如是展轉。乃至梵天。上至有頂。諸天身香。亦皆聞之。

并聞諸天。所燒之香。及声聞香。辟支佛香。菩薩香。諸佛身香。亦皆遙聞。

知其所在。雖聞此香。然於鼻根。不壞不錯。若欲分別。為佗人說。

憶念不謬。爾時世尊。欲重宣此義。而說偈言

是人鼻清淨 於此世界中 若香若臭物 種種悉聞知 須曼那闍提

持經者住此 悉知其所在 諸山深嶮處 梅檀樹華敷 衆生在中者

聞香皆能知 鉄圍山大海 地中諸衆生 持經者聞香 悉知其所在

阿脩羅男女 及其諸眷属 鬪諍遊戲時 聞香皆能知 曠野險隘處

師子象虎狼 野牛水牛等 聞香知所在 若有懷妊者 未弁其男女

無根及非人 聞香悉能知 以聞香力故 知其初懷妊 成就不成就